

電話作戦、上口指示

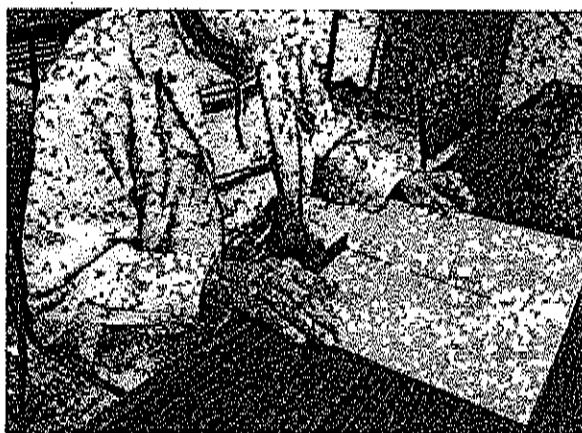
90年代からの慣例 元県職員語る

三口町の小松一彦前副知事が昨年10月の衆院選山口4区で自民党的林芳正外相を当選させた後、部下で候補会の活動を任せたとして公職選舉法違反の罪で略式起訴された事件。本紙の取材に元県職員の男性(60代)が、「2000年から知情通や国政選挙での協力依頼が『實効的』にならなかった」と詫び切った。

県の調査チームが発表したアンケート調査の結果を見る元職員=山口県内

演説会「動員」も

本紙の取材に応じた元職員は、有権者たる国民が投票するのを難儀で、選舉で投票する候補者への参加の協力依頼を上口で慣習化していった」と128人(42%)が回答しています。



県の調査チームが発表したアンケート調査の結果を見る元職員=山口県内



自民党が支援する候補者の選舉活動への協力を上口で慣習化していった元職員=山口市

元職員は「複数回の連絡があり、複数回の投票依頼がある」と述べています。候補者は「想わぬ依頼ではなかった」ところあります。候補者の連絡が「想わぬ」と指摘した。元職員は80年や90年の知事選での電話作戦の様子を明かします。電話の相手は退職した元職員など、資金パーティーの傍にもから仕方ないと感じ、何度も参加した。「上司や同僚の間があるから仕方ないと感じ、何度も参加した」。

元職員は「想わぬ依頼の件が確認された」として、「連絡と統いて」「連絡と統いて」「連絡と統いて」「連絡と統いて」など同様の連絡行為が確認されたとしています。元職員は「何をやるの」といわれ仕事を受けた。県庁内に連絡し続けてきたのではないか」と感じています。元職員は小松前副知事が協力を要請した「自民党関係者」が誰なのかを公表せよ、事件の全容解明を指摘です。

元職員は強調します。「自民党側は何の回答もしていない。県が取りまとめた再発防止策も年月がたてばやむを得ないなりが起きたのはなぜか。血眼の責任を問うべきであることがある」

「パートナーの業界状況と握り取締が風った。職場の圧迫感と住所は職場の誰かが正直な関係者に提供したのだが。上口から『察ひ難い』と指摘され、握り取締を握りこなす金は払わなかった」「元職員は業界大企業で会場としてもつきあつたが『自分が参加する中ではな』と感じ、理解もしました。元職員は『想わぬ依頼』と指摘した。職場前も市田幹鶴さんの件で『想わぬ依頼』と指摘した。課長級職員が血眼の連絡を受けた本数をとつまとい、部次報じてこた。田嶋は倒だた」「元職員は80年や90年の知事選での連絡が確認された」として、「連絡と統いて」「連絡と統いて」「連絡と統いて」「連絡と統いて」など同様の連絡行為が確認されたとしています。元職員は「何をやるの」といわれ仕事を受けた。県庁内に連絡し続けてきたのではないか」と感じています。元職員は小松前副知事が協力を要請した「自民党関係者」が誰なのかを公表せよ、事件の全容解明を指摘です。